

## 第4章 計画の実効性を確保するための基本目標と施策の方向

計画の体系にあたっては、計画の対象とする環境の分野ごとに現況と課題を整理し、計画の実効性を確保するための基本目標、施策の方向、具体的施策及びそれに関連する事業等を設定しています。

また、基本目標の達成度を把握し進行管理を行うための管理指標を設け、それぞれに数値目標を設定しています。

### 1 水辺の保全と創造

#### ▶ 現況と課題

◆ 市内の海辺は、浦戸諸島や越の浦に残る自然海岸を除き、コンクリートで覆われているところが多く、また、市街地と海が隣接しているにもかかわらず、市民が海を身近に感じるのが難しい状況があります。

アンケートからは、「塩竈＝海」というイメージを多くの市民が持っていることがうかがえますが、一方で、半数近くの人が「海と親しむ機会がほとんどない」と答えています。

◆ 市内には、加瀬沼や石田川のように水に親しめる場所もありますが、市街地から遠く、加えて中心部にある水路は、都市下水路的な位置づけをされた箇所が多く、蓋掛けされていることもあり、親水性の高い水辺とはいええない状況です。

今ある自然海岸や親水空間を守りつつ、市民が日々のくらしの中で水辺と親しむことができるような場所や機会を充実していくことが必要となっています。

◆ 港町として発展してきた本市には、海との関わりを感じさせてくれる資源が多く残されていますが、それら

は点在していることもあり、その良さが見過ごされている状況となっています。このため、点在する資源に関する情報を広く市民と共有していくとともに、その魅力を結びつけ活用していくことが重要となっています。

また、アンケートでは「水辺空間のあるまち」を望む声は高く、港と市街地が接しているメリットを活用していくことが求められています。

◆ 塩竈の港は施設の老朽化が進んでおり、改良が必要となっています。また、港湾部の工業地域については、企業の撤退などがみられており、その跡地の活用が課題となっています。

この機会にあわせて、市民と海をより近づけるよう、産業に関しても環境を考慮した新しい視点での取り組み

が求められています。

また、海辺に人々が交流するにぎわいのある空間づくりを実現するため、県などの関係機関との連携を図りつつ推進する必要があります。



浦戸諸島



新町川



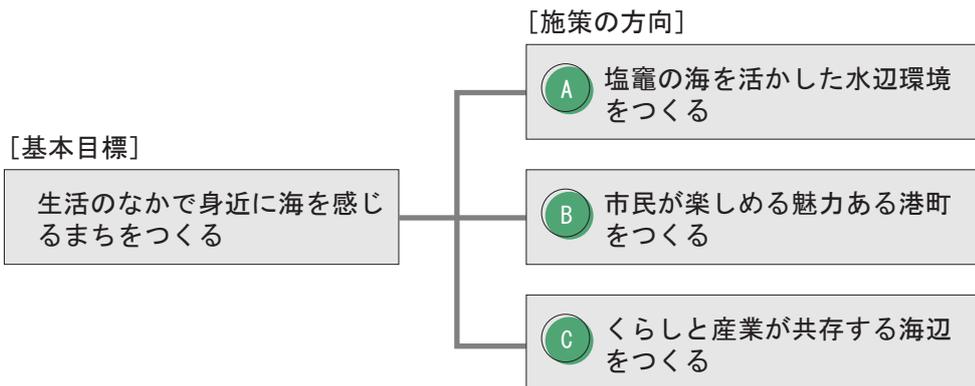
港湾部の石油基地

**基本目標 (1)** 生活のなかで身近に海を感じるまちをつくる

**管理指標**

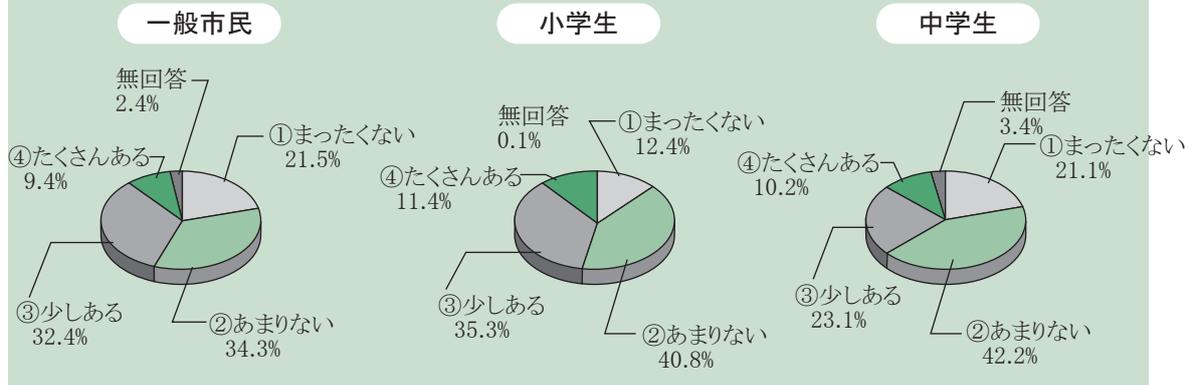
- 「水辺のいい場所ランキング」を実施し、「いい場所」を最初の認定箇所数の2倍以上に増やすことを目標とします。
- マリンゲート塩釜の総利用者数、年間150万人を維持します。また、そのうち船舶利用以外の利用者割合を50%以上を目標とします。
- 市民アンケート調査での海と接する機会が「少しある」又は「たくさんある」の回答率を60%に引き上げることを目標とします。

**施策の方向**



海に親しんだりふれあう機会について、このように感じています…

[海にふれあう機会]



出典：「平成12年度塩竈市環境アンケート」

市内に残る貴重な自然海岸を保全するとともに市民が日常的に海と親しみ、海辺のまちで暮らす利点を最大限に享受できるよう、海辺などの親水環境の整備を進めます。

そして、それらの水辺を市民が気軽にふれあい楽しめるよう、周辺環境やアクセス機能を充実し、一体的な整備を図ります。

#### 具体的施策

- 浦戸諸島や越の浦に残る自然海岸の保全に努めます。
- 散策路や広場など親水施設の整備を進めます。
  - ◇「海辺の賑いゾーン」の整備
  - ◇港奥部再開発事業の推進
  - ◇親水性の高い水路の整備
- サインや駐車場の整備など、水辺へのアクセス機能を充実していきます。
  - ◇港奥部再開発事業の推進【再掲】

海を身近に感じられるよう、鹽竈神社や魚市場などの、市内に点在している資源に目を向け、それぞれの魅力を活かした港町をつくります。

また、それらの資源を歩いて巡ることができるよう、海や緑との共生を重視しながら都市空間の整備を進め、港町のネットワークを実現していきます。

#### 具体的施策

- 海とのつながりを重視したまちの活性化を進めます。
  - ◇中心市街地活性化事業の推進
  - ◇港奥部再開発事業の推進【再掲】
- 魚市場地区の魅力を高め、利用を促進します。
  - ◇魚市場地区再開発事業の推進
- 港町の資源を結びつけるネットワーク整備を市民・事業者と連携して進めます。
  - ◇中心市街地歩行者系サインの整備
  - ◇「(仮称)歩いて楽しめるまち塩竈マップ」の作成、普及
  - ◇観光施設整備・サイン計画の策定

## C くらしと産業が共存する海辺をつくる

これまで市民のくらしと距離があった海辺を、広く市民が楽しめるものにしていくとともに、自然との共生や環境保全に関連する新たな産業が発展する環境づくりを推進します。

また、観光の玄関口である港を、市民も楽しめる海辺の拠点の一つとなるよう、市民の声を取り入れつつ整備を進めます。

### 具体的施策

- 港の利用を高めるような漁港や港湾部の多目的・高次利用を推進します。
  - ◇ 港湾の整備促進
  - ◇ 北浜地区造船移転対策の推進
  - ◇ 漁港背後地の利用促進
- 市民も観光客も楽しめる海辺の拠点整備と活用を進めます。
  - ◇ マリンゲート塩釜の利用拡大
  - ◇ 海洋レジャーの受入体制の整備



マリンゲート塩釜でのイベント



北浜地区の造船所



港奥部